

Report

Vol.1

2024.5.17

# Heap up!



かさねるいこまって  
何してたん？

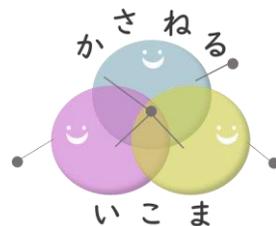
ほっこりエピソード 他

Heap up! とは英語で「重ねる」「積み上げる」という意味です。  
 令和5年度重層的支援体制整備事業への移行準備事業がスタート。  
 果たして何が、どのように重なり、積み上げられたのでしょうか？



支援と支援の「はざま」となって必要な支援が受けられない  
 家の中の色々な問題を一緒に考えてくれる人がいない

そんな困りごとと向き合い、誰もが住みたいまちにするために  
 行政や福祉分野の関係者、様々な社会・経済活動、そして生駒市民が協創し、  
 今ある様々な資源を「かさねる」ことで、想像を超えた未来が生まれるはず。



それが、かさねるいこま ~生駒市重層的支援体制整備事業~ です。



▲詳しくはこちら

P. 4

## 包括的相談支援事業

- ◆いこまる相談窓口 . . . . . 4
- ◆いこまる相談会 . . . . . 5
- ◆つなぐシート . . . . . 5

P. 6

## 参加支援事業

- ◆おでかけいこま . . . . . 6
- ◆福祉イベント実施事業補助金 . . . . . 7
- ◆わがごとカイギ . . . . . 11
- ◆庁内連携・公民連携 . . . . . 12

P. 14

## 地域づくり事業

- ◆まちのえきワークショップ . . . . . 14

## アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

- ◆既存イベントでの周知・啓発 . . . . . 14
- ◆いこまる相談窓口へのヒアリング . . . . . 14

P. 15

## 多機関協働事業

- ◆いこまる主任推進員・いこまる推進員 15
- ◆重層的支援会議 . . . . . 16
- ◆地域共生社会推進会議 . . . . . 17

P. 18

## 支援プランの作成

### 研修・その他

- ◆いこまる相談窓口職員研修会 . . . . . 18
- ◆出前講座(IKOMAサマーセミナー) . . . . . 18

P. 19

## 令和6年度新規で行う取組

- ◆ひきこもり支援ステーション . . . . . 19
- ◆仮想空間での居場所や相談の場づくり 19
- ◆専門職の配置 . . . . . 19
- ◆庁内連携のシステム化 . . . . . 19
- ◆実施計画の策定 . . . . . 19

# 包括的相談支援事業

## ◆いこまる相談窓口

高齢・障がい・子ども・生活困窮といった既存の分野別の相談支援機関でどんな相談も丸ごと受け止める「いこまる相談窓口」の取組を令和5年6月からスタート。デザイナーさんに作っていただいたロゴの塗り絵を公募し、応募していただいた304通の中から選ばれた作品をステッカーにして市内23か所のいこまる相談窓口に掲示し、相談窓口を見える化しています。



▲いこまる相談窓口のリーフレット  
市内90か所に配置

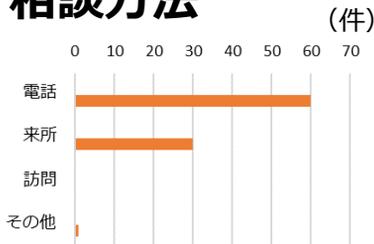


▲市内23か所のいこまる相談窓口

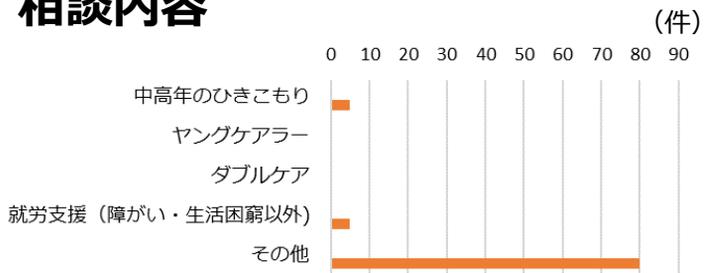
開始前は窓口職員から、「分野外の相談に対して、期待に応えられないかもしれない」と不安の声があったものの、スタートしてからは大きな混乱もなく、開始から年度末までの10か月間で91件の分野外の相談がありました。必要に応じて適切な機関につなぎ、多機関協働事業（15ページ参照）に移行した例もあります。

## いこまる相談窓口 利用状況

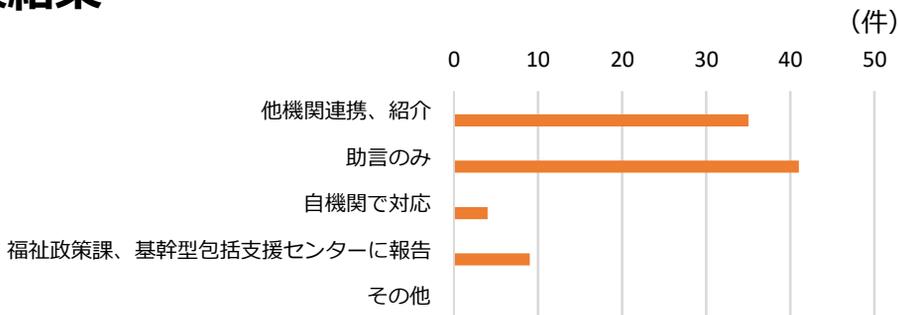
### 相談方法



### 相談内容



### 相談結果



## ◆いこまる相談会

いこまる相談窓口でも相談を丸ごと受け止める取組を行っていますが、相談のきっかけづくりとして、月に1回、第三火曜日に「いこまる相談会」を実施しています。対面とオンラインでの相談会を隔月で実施し、4日前までの予約制とすることで、「どこに相談したらよいか分からない悩み」「生き辛さなど言葉にできない気持ち」などの相談に対し、それぞれの悩みに対応できる職員が相談を受け、必要な機関につなぎます。

相談会も令和5年6月から実施し、年度末までの10か月間で5件の相談がありました。ひとりで抱え込むのではなく、専門の機関に相談するきっかけとして、気軽にお申込みいただければと思います。

## ◆つなぐシート

複合的な問題があり、どこにどのように相談したらよいか分からず、それぞれの課で同じ説明をしないといけないという状態を解決するため、庁内や出先機関等で令和5年4月から「つなぐシート」の運用を開始しました。

最初に相談を受けた機関が相談内容や課題を整理し、必要度が高い順に次の相談窓口につないでいきます。すぐに相談窓口につなぐ場合は原則同行案内をすることとしており、安心して相談できる環境づくりに努めています。

つなぐシートの運用は、1年間で19件あり、つなぐだけで解決しない問題に関しては重層的支援会議（16ページ参照）で取り上げることがあります。

**つなぐシートの運用方法**

①相談相談窓口  
相談者から相談を受ける窓口です。  
「つなぐシート」の概要を説明し、相談内容についての必要事項を記録します。  
相談者が必要とする機関を特定し、必要に応じて「つなぐシート」を作成し、関係機関へ送付します。  
関係機関が相談を受け、必要に応じて「つなぐシート」に書き込む。  
関係機関が「つなぐシート」に書き込む。  
関係機関が「つなぐシート」に書き込む。

②次の相談窓口  
このままだと解決しない場合は、関係機関の相談予約を受け付けを行います。  
関係機関が「つなぐシート」に書き込む。  
関係機関が「つなぐシート」に書き込む。  
関係機関が「つなぐシート」に書き込む。

③の相談窓口  
このままだと解決しない場合は、関係機関の相談予約を受け付けを行います。  
関係機関が「つなぐシート」に書き込む。  
関係機関が「つなぐシート」に書き込む。  
関係機関が「つなぐシート」に書き込む。

**つなぐシート**

相談者情報  
氏名 性別 年齢 住所 電話番号 相談日時  
相談内容  
相談経過  
相談結果

**つなぐシートについて**

(1)なぜ「つなぐシート」が必要なの？  
複合的な問題があり、相談に行っても、どこにどのように相談したらよいか分からず、様々な部署をたらい回しにされ、毎回同じ説明を繰り返さないといけないことがある。また、相談を受けた部署だけでは解決できず、適切な部署につなぐことが難しいこともある。

(2)「つなぐシート」の目的  
●相談場所が分かりやすく、安心して相談できること  
●職員が同行するのだから「押しにならない」こと  
●同じ説明をしなくてよいので相談者の負担を減らすことができること  
●複数の部署で問題を解決できるため、複雑な問題にも対応できること

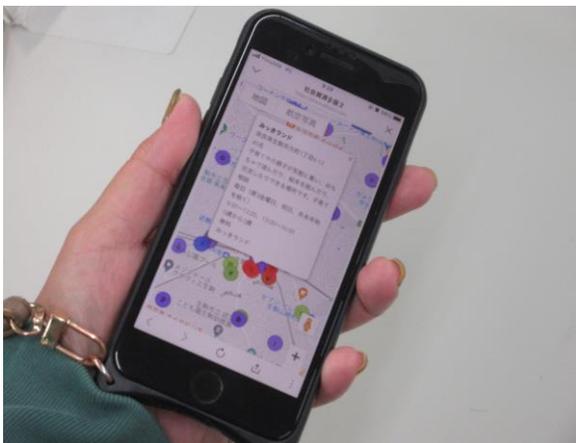
(3)「つなぐシート」の効果  
●複数の悩みを抱える相談者に対し、早期に連携して支援することができる。  
●相談者を適切に窓口へ案内することができる。

# 参加支援事業

参加支援事業とは、高齢・障がい・子ども・生活困窮等の既存制度では対応できない狭間のニーズに対応するため、本人の希望や必要性に応じて社会資源（利用者のニーズ（課題）を充足させるために動員されるあらゆる物的・人的資源を総称したもの）につなぐことや、多様な資源の開拓を行うことで、本人・家族が社会とのつながりを回復できるように支援することです。令和5年度は参加支援事業として、おでかけいこま、福祉イベント実施事業補助金、わがごとカイギを行いました。

## ◆おでかけいこま

市民が「集いの場」を簡単に検索できるように、市内で定期的に実施されている活動・サービスの所在地や内容を地図上にまとめたWEBサイト「おでかけいこま」を開設しました。これは本市在住のシステムエンジニア・山田和明さんに無償で提供いただいたプロトタイプに生駒市が所有する施設情報を提供することで実現しました。市内にどのような「集いの場」があるのかを気軽に検索していただき、孤独や孤立の予防や介護予防など、幅広い用途に役立ててもらうことが目的です。いこまの相談窓口をはじめとする相談窓口はもちろん、子育て広場から高齢者の介護予防教室の情報、自治会で行われている「まちのえき」に至るまで、地域とつながるきっかけとなる様々な情報を掲載しています。



▲おでかけいこま



▲わがごとカイギ



▲福祉イベント実施事業説明会・交流会



▲福祉イベント



▲事業所お見合い大作戦



▲福祉イベント実施事業補助金説明会



▲各事業所のパンフレット

### ◆福祉イベント実施事業補助金

令和4年度に地域包括支援センター、生活支援センターなどの委託事業者へ実施したアンケートによると、「高齢障がい、子ども、生活困窮等の分野を越えた支援者の関わりを拡げたい」、「福祉事業所を地域に開かれたところにした」といった意見がありました。

そこで、福祉事業所同士の交流を深めることで分野を越えた課題への対応力を高めるとともに地域住民とのつながりをつくることのできるイベントを対象に、補助金交付事業を行いました。生駒市内の福祉事業所等が2分野3団体以上で連携し、福祉事業所間や地域とのつながりを持つことのできるイベントの実施等を条件にしています。

令和5年6月7日に本事業の説明会・交流会を実施しました。42事業所59名の方にご出席いただき、本事業の説明以外にも地域共生に関する講義を

行った後、「事業所お見合い大作戦」と称した交流会を実施しました。他事業所の方と4名1組程度で会話し、10分程度でベルが鳴ったらまた違う事業所の方と4人程度で会話してもらおうとすることを繰り返し、様々な分野を越えた支援者同士の交流を深めてもらいました。

参加者のアンケートでは、「他分野の方との交流ができて良かった」という声が多く、未回答を除く全員が今後、も交流会に参加したいと回答するなど、定期的に分野を越えた支援者が集まる場の需要の高さを改めて確認しました。

また、「いろいろな分野の方の『こんなことができるよ』が聞けて良かった」、「他分野の事業内容を聞いて、法人・事業所としてできることがあると感じた」といった声もあり、今後も継続して交流会の場を設けたいと考えています。

## 視察に行きました！

重層的支援体制整備事業を先進的に行われている地域に視察に行かせていただきました。令和5年度は12月に久留米市様と佐賀県のスチューデント・サポート・フェイス様に、1月に三股町様に行かせていただき、地域ネットワークづくりの手法やひきこもり支援について学びました。



## 地域のかで始まる 南チロル堂オープンイベント

福祉イベント実施事業第1号として実施されたこのイベント。9月9日に障がい分野の就労継続支援B型支援事業所 Growin、生駒市梅寿荘地域包括支援センター、萩原町自治会の3団体で実施され、第1部は子どもたちのイベントとして「お月見どろぼう」が、第2部は昼の子どもたちのイベントのお手伝いをされた方で交流会・フォークソングコンサートが開催されました。第1部第2部とも地域包括支援センターの方が常駐し、相談支援をされました。

「お月見どろぼう」は生駒地域での風習で、お月見のとき子どもがお供えを盗むと縁起が良いとされ、今は家の前に置いてあるお菓子を子どもたちがもらって回る日として受け継がれています。



- ①南チロル堂で「どろぼうマップ」を受け取る
- ②③萩原町内の公民館・寺等4か所でお菓子やお団子を受け取る
- ④隠された文字をコンプリートしたら南チロル堂へ
- ⑤「お月見どろぼう」の際に地域で見守りを行うボランティア、通称「チロールさん」
- ⑥フォークソングコンサート

イベントへの参加者は昼の部が子ども600名以上、大人200名程度、夜の部は50名程度、地域の方々は60名程度運営のお手伝いとして参加されました。また、地域包括支援センター等への相談件数は5件ありました。

一般の参加者からは、「スポーツがバラエティに富んでいて、たどりが着く場所ごとに少しずつ違った楽しさが待っていたからデイズニードみたいで楽しかった」、「今まで地域活動はめんどくさいと思って参加しなかったが、誘ってもらってやってみたら楽しかったのでまた誘ってほしい」といった声があり、地域活動へのきつかけとなるという本来の目的を超えた効果もありました。

実施団体からは、「一人で活動を行ってきたけど、全然違う関係機関の方と一緒に活動できたことで、視野が広がっていい経験ができた」という感想をいただきました。

この障がい分野と高齢分野の事業所は、お互い存在は知っていたものの、声を掛けるための一歩が踏み出せず、また具体的にどんな仕事をしているのかも知らなかったとのことでした。

今回のイベントをきっかけに繋がりができたため、相談支援・参加支援の対応力向上にもつながると思われる。今後は子どもたちの「居場所」としてだけでなく、高齢者が「チロールさん」として、南千歳店の店番を担われることから、高齢者にとっても役割のある居場所となり、持続可能な取組になることを願っています。

また、地域包括支援センターと連携することで、フレイルが疑われる方を積極的に地域から包括支援センターにつなぎ、元気になられた方を「チロールさん」としてつないでいただくことで、日常生活圏域でのセーフティーネットワークづくりになると考えます。

## こころぼかばか絵の本ひろば ぷらす プラレールひろば

福祉イベント実施事業第2号は1月20日、21日に訪問看護ステーションココ+（「ココプラス」）、児童発達支援・放課後等デイサービスみらい、いこま育児ネット、生駒おもちゃ病院の4団体で実施されたイベントです。

このイベントは、近鉄百貨店生駒店に新しくオープンしたスペース「iusクエア」にて実施されました。

絵の本ひろばとは、絵本だけではなく様々な本が300冊ほど表紙を見せて並んでおり、どんな人でも、自由なスタイルで楽しむことができる居場所です。また今回は、メンタルヘルスの啓蒙につながる本も選定されていました。



イベントは大盛況。約700名の来場者がありました。子どもがプラレールで遊べるひろばや、絵本を通した居場所や交流の場となりました。

育児相談はいこま育児ネットが、メンタルヘルス等の相談があれば訪問看護ステーションココ+のスタッフが対応しました。

来場者からは、「こういう場所がほとんどないのでまた開催してほしい」との声を多数いただいたとのことです。

代表団体からは、「2日間を通して子どもから大人、障がいのある方まで多数の参加者が来られたため、絵の本ひろばのことや運営団体を多くの方に知っていただく機会になった。子育て中の親子が無料で過ごせる居場所はあまりなく、定期的開催してほしいというニーズが高いことが分かった」との声がありました。



## わくわく！福祉体験フェア

補助対象の福祉イベントではありませんが、事業説明会・交流会がきっかけで実現した事業所連携イベントです。生駒市内の福祉事業所など11団体が参加し、ワークショップや車いす乗車体験を通して、子どもからお年寄りまで幅広く福祉について学ぶことが出来るイベントでした。



## ◆わがごとカイギ

地域の困りごとを地域で解決し、必要であれば専門職につなぐという地域ネットワークづくりを目的としたわがごとカイギ。

令和5年度は軽井沢町で実施。まずは顔の見える関係づくりのため、定期的な集いの場を作ることを目標に、地域住民の

「やってみよう！」に福祉課題解決の付加価値をつけるというアプローチで話し合いました。軽井沢町にお住まいで小学5年生以上の方を対象とし、1月14日、1月28日、2月28日、3月3日の4回、講義やワークショップ等を行いました。

子どもたちからは「お菓子作り&お祭り&ゲーム大会&合宿」、大人からは「スポーツ観戦と作り置き」「多国籍料理作りやクリエイターによるワークショップ」等の企画が生まれました。定期的で持続可能性のある活動を企画し、実践までの伴走支援を行います。

## 早速「やってみよう！」

発案された企画から「作り置き&お菓子作り&ゲーム大会」を2月にお試して実施。大人が買い出しと食事作りをしている間に子どもがお菓子作りやカードゲームをするという3つの企画を同時に行いました。分担することで一人ひとりの家事負担を軽減しながら、子どもたちを見守りました。開催後、「ちょっと心配なママ友がいるので呼んでみたい」「学校に行っていない友達を呼びたい」などの声があがり、多様な方が気軽に集まれる場ができることで、孤独孤立の解消が期待できます。



▲作り置き

▲ゲーム大会



▲お菓子作り

▲企画への参加メンバー

## ◆庁内連携・公民連携

相談支援を受けている対象者が、地域とのつながりを持ち、社会復帰等に向けてステップアップできるよう、庁内・民間企業や事業所などと意見交換を行い、相談支援体制の充実や、既存の社会資源の拡充や開発に向けての取組を行いました。

例えば、生駒市社会福祉協議会の本町の新拠点（ごっちゃん☆ばあ）に、生駒市社会福祉協議会、SDGs推進課、拠点形成課、地域共生サミット推進室など地域に関わる市の関係各課が集まり、ごっちゃん☆ばあの見学と自己紹介を行い、意見交換を行いました。



また、民間企業との協働の可能性について、みまもりあいアプリや認知症に関するチャンネルを配信されている（一社）セーフネットリンケージ、24時間チャット相談をされているNPO法人あなただのいばしょ、また数々の福祉事業所等との意見交換を行いました。

また、協創対話窓口への申請があった企業では、移動問題の解決に向けた取組をされているMHILL(株)、介護事業所の送迎問題の解決に向けてのご提案をされている事業者など多数の民間企業ともお話をさせていただき、これらの協議は年間39件行いました。



## 社会資源の見学・体験

参加支援事業では、社会との接点が必要とされている方々への取組を進めています。

そのためにはまず、支援者側が多様な社会資源を知る必要があります。社会とのつながりや居場所を求めて

おられる方々、またその支援者に適切な社会資源を紹介できるよう、我々も市役所を飛び出し、見学や体験を通じて学んでいます。



▲道草農園

# ちよこっ&コラム

不登校、ひきこもり等社会生活上様々な困難を抱える子どもや若者を支援するための総合相談窓口であるユースネットいこまの利用者と庁内各課のチラシ作成業務をつなぎ、イベントのチラシを作成していただきました。ご本人がチラシを作成してみたことや気持ちの変化、支援者の視点などをお話していただきました。

## ●森本直希さん

最初お話を頂いたときは、「どうして僕が?」と思いました。絵もデザインも得意ではないし、関心も正直ありませんでした。それでも自分

が適任であるからと言っていただき、生駒市の方と互いにやり取りを重

ねていくうちに、たとえ最初関心のないことでも、自分なりに文字と素材を組み立てて、要望に答えてアイデアが形作られ、面白くなっていく。初めてながら、自分の予想を上回る出来になっていました。



## ●A・Oさん

私は高校と大学で美術を専攻し、デザインに関する職に就くことを目指していましたがうまくいきませんでした。こちらでお世話になり、チラシ制作の依頼を頂いたものの、無報酬での依頼を受けることに抵抗があり一度はお断りしましたが、今後更に活動するには実績や下積みが必要である

と考え直し、お受けする事に決めました。イラストレーション専攻だったので自信がありませんでしたが、独自に学び、シンプルさ重視のチラシに仕上げました。今後報酬を伴う仕事につなげられるよう、学生時代に築いた実績と合わせて更に積み上げようと思います。



## ●ユースネットいこま 相談員 花山幸江さん

現在は、上記の2名だけではなく複数の方が、チラシ作成の依頼を受けてくれています。皆さん無償にも関わらず、一生懸命取り組んで期待以上のものを作成してくれています。私は初回の打ち合わせには同席するのですが、その後は担当者さんとご本人だけで直接メールのやり取りをして仕上げていきます。担当者さんとのメールを通してのやり取りは、ビジネス的なコミュニケーションの経験値を上げる貴重な体験になっていると感じています。また、完成したチラシをご家族が喜んで、チラシを通して家族との会話の幅が増えたなどの声を聞くと、チラシを作成することで得られるギフトの大きさに驚かされています。



# 地域づくり事業

地域づくり事業とは、高齢・障がい・子ども・生活困窮の既存の地域づくりに係る取組を活かしつつ、世代や属性を越えて交流できる場を構築し、地域資源の開発やネットワークの構築を行うものです。

## ◆まちのえきワークショップ

来年度から「まちのえき」は重層的支援体制整備事業の地域づくり事業に位置付けられます。従来の「にぎわいづくり」の観点に福祉的な要素をプラスできるよう、福祉的な社会問題や地域で取組めることなどをお話しさせていただきました。



# アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

アウトリーチ等を通じた継続的支援事業とは、支援が届いていない人に支援を届けることや、支援機関のつながりの中から潜在的な相談者を把握すること、本人との信頼関係の構築に向けた支援に力点を置くことを目的としています。

## ◆既存イベントでの周知・啓発

支援が届いていない方に支援が届くよう、生駒市で開催されている既存のイベントやまちのえき等でいこまる相談窓口の周知をしました。また、地域で心配な方がおられたらまず本人・家族が相談機関とつながることができるようお声がけをしていただき、それでもつなげることができない場合、福祉政策課へご一報いただけるよう促すチラシを作成し、アウトリーチの啓発を行いました。

## ◆いこまる相談窓口へのヒアリング

かさねるいこまの相談支援としての支援内容や、アウトリーチを必要とされているご家族がおられる案件を共有し、「だれひとり取り残さない」取組を行っています。



- ① だんどご祭り
- ② ぐらしのブンカサイ
- ③ 啓発用チラシ
- ④ 周知用缶バッジ

## 多機関協働事業

多機関協働事業とは、包括的な支援体制の構築を支援するもので、既存の相談支援機関のサポートを行い、単独の支援機関では対応が難しい複雑化・複合化した事例の調整役を担い、重層的支援会議での協議等を通じて支援関係機関の役割分担や支援の方向性を定める機能を果たします。

### ◆いこまる主任推進員・ いこまる推進員

かさねるいこまの事務局である福祉政策課にいこまる主任推進員を2名配置し、職員を含めた4名で重層推進チームを結成。対象者を「どこにつないだらよいか分からない」、「他の支援者が分からないのでつないでほしい」、「多機関で協議したい」などの相談にお答えし、「支援者支援」とし

て支援者の方々の相談に乗っています。令和5年度は35件の支援者支援を行いました。多機関で検討が必要な場合には各機関にヒアリングを行い、重層的支援会議でケース検討を行うための調整を行います。また、制度の「はざま」となり支援する担当課や機関がない場合には、直接支援をしています。

庁内連携を進めるため、関係各課から選出された45名のいこまる推進員を配置しました。連携の窓口となり、必要に応じて重層的支援会議に出席します。

5月11日にいこまる推進員会議を行い、かさねるいこまの事業の目的やつなぐシートの運用などの説明、庁内が連携して課題に取り組む重要性を共有しました。

## 気持ちがお楽になった

支援者と言えど人間。この支援で良かったんだろうかといつも自問自答しています。特に生活困窮や虐待など、ひっ迫している案件を扱うときは、専門職ゆえの責任感からひとりで抱え込んでしんどくなってしまうことも。

生駒市社会福祉協議会のくらしとしごと支援センターで支援を行っている水嶋さんは、生活福祉政策課に相談。他者に相談することで気持ちがお楽になったと言います。その後、多機関連携事業として関係各課の意見も聞くことができ、他の課と連携して支援することで役割分担ができ、現在も3課で共有しながら支援を行っています。



▲くらしとしごと支援センター  
水嶋義得さん

## ◆重層的支援会議

担当当課（障がい福祉課、生活支援課、地域包括ケア推進課（地域共生サミット推進室）、健康課、幼保こども園課、子育て支援総合センター、生涯学習課、福祉政策課※）と生駒市社会福祉協議会の担当者が出席し、月に1回重層的支援会議兼生駒市地域福祉連携・協働推進会議 重層的支援体制整備部会を行いました。

第1部は重層的支援体制の運営に関するごとと毎回「今月の特集」として、様々な部署が関係するテーマを取り上げました。

第2部は必要に応じてケース検討を行い、様々な部署が集まることで気軽に相談できる関係性ができ、他の部署の意見やアドバイスを聞くことで各課の支援の引き出しが増えました。

※ R5 年度時点の課名

### ◀ 第1部 ▶

日付/回数	内容	出席者
4/12 (第1回)	1.ヤングケアラーについて 2.意見交換について（結果） 3.令和6年度のスケジュールについて	特命監、部次長、 担当当課+市社協、CDO補佐官、 教育指導課、市民活動推進センター
5/10 (第2回)	1.まごころ収集について 2.互助サポートについて 3.福祉イベント実施事業補助金について	部次長、 担当当課+市社協、CDO補佐官、 環境保全課、市民活動推進センター
6/14 (第3回)	1.近鉄百貨店との協働について（公民連携） 2.社会資源マップの作成について 3.共有フォルダの作成について	部次長、 担当当課+市社協、CDO補佐官、 SDGs推進課
7/12 (第4回)	1.来年度の重層的支援体制整備事業について 2.いこまる相談窓口のLINE利用について	部次長、 担当当課+市社協
8/9 (第5回)	1.生駒市消費者安全確保地域協議会の設置について 2.重層的支援システムの導入について	部次長、 担当当課+市社協、 消費生活センター
9/13 (第6回)	1.生駒市市社協の本町の新拠点活用について 2.アウトリーチについて 3.まごころ収集について（再考）	部次長、 担当当課+市社協
10/10 (第7回)	1.生駒市消費者安全確保地域協議会設置について 2.福祉イベントについて（報告）	部次長、 担当当課+市社協、 消費生活センター、奈良県弁護士会、 奈良県消費・生活安全課、生駒警察署生活安全課
11/8 (第8回)	1.大人のひきこもり等の支援について（意見交換） 2.地域共生社会プレイベントについて（報告） 3.アウトリーチ用チラシ（意見交換）	部次長、 担当当課+市社協+市民活動推進センター （事例紹介） ・道草農園（一般社団法人 和草） ・ダイバーシティ人材育成事業（あたく組）
12/13 (第9回)	1.第3次教育大綱について（意見交換） 2.いこまる相談窓口の件数・内容報告	次長、 担当当課、 教育指導課教育政策室
1/10 (第10回)	1.総合計画と第9期介護保険事業計画と重層的支援の相関について（講義） 2.生駒市におけるネットワーク形成図の作成（意見交換）	部次長、 担当当課、市社協、 奈良県地域福祉課、奈良県社会福祉協議会
2/14 (第11回)	1.重層的支援体制整備事業の拡充に向けて～今後の展開を構想するための点検の進め方（意見交換） 2.ケース検討	部次長、 担当当課、市社協、 奈良県地域福祉課、奈良県社会福祉協議会
3/21 (第12回)	1.自治体セルフチェックシートについて 2.来年度の重層的支援会議について 3.わがごとカイギについて 4.ケース検討	部次長、 担当当課、市社協、 奈良県地域福祉課、奈良県社会福祉協議会



▲10月 生駒市消費者安全確保地域協議会の開催



▲11月 事業所の方をお招きして意見交換を実施



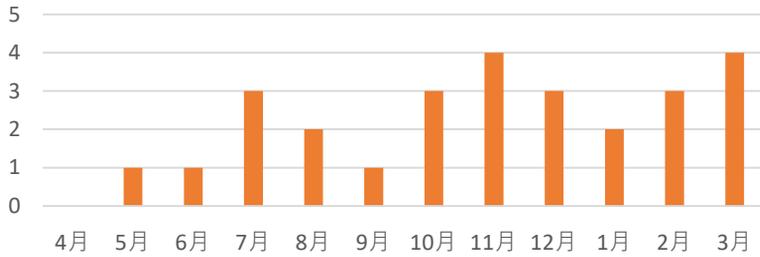
▲12月 教育と福祉の関わりについてワークショップを実施

1年間で延べ27件のケース検討を行いました。



◀ 第2部 ▶

ケース検討件数



◆地域共生社会推進会議

近年福祉の領域を越えて地域

社会の課題解決・活性化を循環

する取組が必要となっており、

庁内一丸となつて地域共生社会

を実現するため、令和5年度よ

り既存の「地域包括ケア推進会

議」を「地域共生社会推進会

議」と改め、市長を座長とし、

理事者、全部次長級、関係課長

を対象として進捗報告、方針の

検討などを5月と11月の2回行

いました。

5月9日は、同志社大学社会

学部教授の永田祐氏をお招きし、

包括的な支援体制はなぜ必要か、

包括的支援体制の体制整備につ

いてお話しいただきました。大

事なのはそれぞれの分野の「重

なり」の仕組作りであることを

学びました。

11月16日は、令和5年度地域

共生サミットを開催した豊田市

に視察に行った際の報告と、生

駒市での孤独・孤立対策につい

て、また重層的支援体制整備事

業の進捗や今後の動きなどにつ

いて、報告を行いました。





## 令和6年度新規で行う取組

### ◆ひきこもり支援ステーション

「中高年のひきこもり」など支援の「はざま」となりがちな方だけでなく、属性や年齢の壁を越えて、社会とのつながりづくりの第一歩になるような

「居場所」を提供します。また、相談支援、居場所づくり支援、地域のネットワークづくり、当事者会・家族会、住民向け講習会・サポーター養成、就労支援などを一体的に実施し、包括的な支援を行います。

ひきこもり支援ステーション



相談支援



居場所事業



地域協議会等

### ◆仮想空間での居場所や相談の場づくり

オンラインでアバターを使用して居場所へのチャットでの参加や相談支援等を行います。家から出ることのできない方が他者との交流を行いたい場合に利用していただくことを想定しています。時間を決めて開設します。

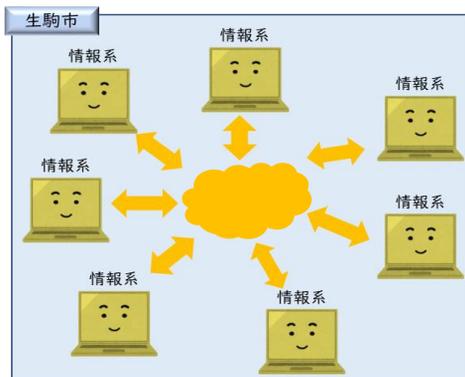
### ◆専門職の配置

社会資源への参加支援やアウトリーチ（支援が届いていない方に積極的に支援を届ける）を行うため、保健福祉等の専門職を配置します。



### ◆庁内連携のシステム化

庁内で地域の方々の相談・支援記録や困りごとを共有できるよう、クラウドサービスを活用し、連携システムを構築します。



### ◆実施計画の策定

令和7年度からの重層的支援体制整備事業本事業開始に向けて、実施計画の策定を行います。

# お知らせ

**無料・匿名で24時間365日「あなたのいばしょ」で相談できます。**



本市では、いこまる相談窓口閉所時間にも対応できるよう、特定非営利活動法人あなたのいばしょ（東京都：理事長 大空幸星）と関西初の事業連携協定を締結することとなりました。希望に応じて、相談内容を市と共有し、必要な支援につなぐなども可能になりました。

 あなたのいばしょ  
IbashoChat.org

について

「望まない孤独」の根絶を目指し、日本で唯一となる24時間365日年齢や性別を問わずだれでも無料・匿名で相談できるチャット相談窓口。世界32カ国に約1000名の相談員を抱え、1日最大で約3000件の相談に応じる国内最大規模のチャット相談窓口です。



相談はこちらから

## 編集後記

早いもので、かさねるいこまが始まり1年が経ちました。様々な事業所や市民の方々とお話する中で、「重層的・・・」って何やってるん？とよく聞かれました。そこで親しみを持っていただくために「かさねるいこま」と名付けたものの、内容の公開が追い付いていなかったの、今回Heap up!の創刊号を令和5年度の活動記録として発刊することにしました。今後、不定期ではありますが刊行予定ですので、お楽しみに☆(吉)

かさねるいこまの担当になり4か月が経ちましたが、お配りした名刺は60枚を超えていました！今後もどんどん外に出ていき沢山の方とお話させていただきたいと思っています。周知にも力を入れてまいりますので、是非休憩がてらご覧ください♪(三)



表紙の写真はP.12の道草農園に見学・体験に行かせていただいたときに撮影したものです。ご協力ありがとうございました。

困ったときは  
こちら

### 相談窓口



いこまる相談窓口



どのような困りごとも  
丸ごと受け止める相談窓口

### 相談会



いこまる相談会  
月1回の何でも相談会

### ポータルサイト



 いこま  
相談窓口や支援を紹介

生駒市役所 福祉部 福祉政策課 生駒市東新町8番38号

☎ 0743-74-1111 (内線7220) ✉ kourei@city.ikoma.lg.jp